

Y03a 「しし座流星群高校生観測会」2年間の総括

鈴木文二 (三郷工業技術高校)、観測会実行委員会

学校教育の中で、地学・天文分野は、非常に厳しい状況に置かれています。高校生の天文への興味関心をどう受け止めていくか、これは教育・普及関係者だけではなく、天文学のコミュニティ全体にかかわる事ではないかと思えます。現在、一定の成果を上げている天文教育・普及の取り組みには、さまざまなアプローチや視点があります。その中で、私たちが企画した「しし座流星群全国高校生同時観測会 (Leonids'98)」では276校、「しし座流星群高校生国際観測会 (Leonids'99)」では国内205グループ、海外23ヶ国102グループの参加がありました。日本のみならず、世界的にも、このような教育・普及活動は、今までに一度もありませんでした。観測会によって得られた科学的成果も含め、高い評価を受けています。特別な環境にある高校生のための参加ではなく、広い範囲の高校生が参加したことは、今までの「先進的」な教育・普及プロジェクトと際違った違いがあります。Leonids'98-99は、少なくとも天文に興味を持つ高校生が、日本全国にこれだけいる、世界にもその輪は広げられるということを、天文関係者に再認識させました。さらに、プロジェクトを通して育まれた、人と人とのネットワークの発展性をはっきりと示しました。今年度は、国内を9ブロックにわけて地区事務局を置くなど、組織的な活動に厚みが出てきました。海外からは、流星雨に遭遇したタンザニアなどから、克明な記録とともに、観測時の生々しい雰囲気がレポートされています。講演では、2年間の総括とともに、今後のプロジェクトの具体的な方向について述べる予定です。